令和８年度　第１回地下水採取審査委員会　会議録

１　日　時：令和８年５月２５日（月）１４：００～１５：００
２　場　所：座間市役所
３　出席者：委員　　守田委員長、中島副委員長、宮下委員、大木委員
　　事務局　くらし安全部長、生活安全課長、副主幹兼環境保全係長、主事
４　公開の可否　　☑公開□　一部公開　□非公開
５　議題
（１）令和８年度　座間市地下水総合調査業務委託について
（２）令和８年度　有機フッ素化合物分析の調査地点等について
（３）その他

６　配布資料　資料１～９

７　議　事
（１）令和８年度　座間市地下水総合調査業務委託について

ア　事務局説明

事務局	昨年度行った座間市地下水保全基本計画を改訂した。計画に基づき、地下水総合調査を予定しており、現在業者を入札により選定すべく手続きを進めている。内容については大きく２つで、GETFLOWS を使用しての渇水シナリオシミュレーションと簡易な湧水量調査を実施する予定である。

イ　質疑応答

守田委員長	渇水に関しては、近隣の自治体の動きを想定することが重要となってくる。また、座間市の帯水層は一層であるが、座間市の井戸のストレーナーの位置等はわかっているのか。
事務局	公的な井戸は把握しているが、事業所が持っている井戸についてはストレーナーの位置が不明なものがあり、詳しい分析ができていないものがある。今後そうしたところについても相談させていただきたい。
守田委員長	了解した。井戸水について、普段どの深さからくみ上げているのかの情報がないと信頼性に影響するため、少々気になった。
宮下委員	GETFLOWS の得意とする今年の２月～３月の渇水が再現できるようなシミュレーションにするとよい。 また、簡易な湧水量調査では水収支がきちんと計測できるような地点選定をしてもらいたい。
事務局	承知した。

（２）令和８年度　有機フッ素化合物分析の調査地点等について
事務局

中島委員　　今年度継続して調査を行う地点について、座間は浅井戸・深井戸、南栗原は浅井戸であるが、他の調査地点の浅井戸・深井戸の区別はどうなっているか。

事務局　　栗原は深井戸、相模が丘は深井戸、西栗原はストレーナーの位置が複数、座間は浅井戸、新田宿についてはストレーナーの位置不明となっている。

中島委員　　今後調査をしていくにあたり、浅井戸・深井戸の区別についても考えていく必要がある。今年は深井戸が多いが、過去のデータから浅い地下水と深い地下水のどちらを中心に分布しているのか考えた方がよい。例えば、各務原市や熊本市だと浅井戸と深井戸で分布に特徴があるため、底を意識すると立体的に特徴がつかめるのではないか。

守田委員長　　浅井戸・深井戸の区別については、どのような区別をしているのか。

事務局　　ストレーナーの位置が GL-30ｍを基準に区別をしている。ストレーナーがGL-30ｍをまたがる位置にあるものは浅深井戸と表記している。

守田委員長　　すべて水道水源井のストレーナーの位置を把握しているのか。

事務局　　ほぼ把握していると認識している。中には深度のみ把握しているものもある。

中島委員　　礫層の違いなどがあるので、相模川沿いの低地部などは同じ深さ（GL-30m）で浅井戸・深井戸を区切るのがよいのか検討してもよい。

宮下委員　　調査によって市内の広域的な部分の分布が分かってきたので、調査していない井戸があといくつ残っているのか、今後同じようなペースで調査が行えるのか。また、調査していない井戸がなくなった場合にどうするのかについて、検討した方が良い。

事務局　　今回の調査で未調査の井戸はほぼなくなることになる。今後の方針については今年度中に示した上で、また相談させていただきたい。

（３）その他

事務局　　観測井で地下水位が下がっている事案について、事務局からその後の推移と現状を報告した。

質疑応答については特になし。